The Japanese American News

昭和三年五月廿四日 (木曜日) 第二万二百六十二號

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET
SAN FRANCISCO CALIFORNIA
PHONE FRONSPECT 238
ENTERED AS S. F. POST OFFICE
AS SECOND CLASS MATTER
K. A. IKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES
IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 5.50
DAILY.....ONE MONTH..... 1.00
SINGLE COPIES..... 5 CENTS

世界類の大損失

野口博士の死を悼む

世界的の黴菌研究者として世界人類の為に貢獻し世界人類に幸福を與へしめた功績は實に赫々たるものがある、即ち博士は細菌學や血清學の研究に沒頭し、種々の業績を收めてゐる、先づ世にも恐れられる梅毒菌の培養に成功し小兒麻痺症及び恐水病の病菌の培養にも成功した博士最大の發見たるセロフィーバーの研究は實に徹底したものでその實體の發見及びその療養法は完成しセロフィーバーは今や南北米の地より驅逐され盡くして現在では南西アフリカの海岸及び南洋諸島にしか見られぬ有樣となつてゐた。

8

博士がこれ等の新發見によつてされた多數の人命を救助し世界人類にされだけ澤山貢獻したかわからぬ、殊に博士の研究たるや、何れも一歩誤れば自分の生命にも關するといふ非常な危險性を帶びたものばかりであつたのに博士は、何等一憂慮する所なく渾身の精力をこれが研究に傾注し、これが完成を期し世界人類から、これが病菌の根絶を期すべく南亞の蠻地に自ら身を挺して、その研究に沒頭中、遂にこの病のために不幸中途にして、その職に殉ずるの外なきに至つたことは實に遺憾に堪ゆる次第である。

9

博士の死は獨り學界のためでなく世界人類のために一大損失である。世界の反影は大きい、排日紙ハースト系紙の有力評論家アーサーブリスベー氏が博士の死は實に世界の大損失である、博士の功績を永く後世に傳へるため銅像を建てるまでの言葉が尚不撤底の憾みがある。

世界的の大人であつた野口博士は南亞の蠻地で研究中のセロフィーバーのために斃れたのであつた、これは恰もその敵の殉する殉教者の如く人類の生命を救援するためにその職に殉じたものである、凡そ世のなかに崇高なものといつてもその職に殉ずる位、崇高なるものはない、これは恰も軍人が戰場に臨んで討死するのと少しも變りはない、而も博士の死は蠻地にまで乘り込んで危險な病菌の研究に沒頭した結果であつてその勇敢なる且その崇高な精神こそ實に敬服の外はない。

2

野口博士はロックフェラー研究所に在つて世界學界に貢獻し世界人類に幸福を與へしめた功績は實に赫々たるものがある、即ち博士は細菌學や血清學の研究に沒頭し、種々の業績を收めてゐる、先づ世にも恐れられる梅毒菌の培養に成功し小兒麻痺症及び恐水病の病菌の培養にも成功した博士最大の發見たるセロフィーバーの研究は實に徹底したものでその實體の發見及びその療養法は完成しセロフィーバーは今や南北米の地より驅逐され盡くして現在では南西アフリカの海岸及び南洋諸島にしか見られぬ有樣となつてゐた。

8

博士がこれ等の新發見によつてされた多數の人命を救助し世界人類にされだけ澤山貢獻したかわからぬ、殊に博士の研究たるや、何れも一歩誤れば自分の生命にも關するといふ非常な危險性を帶びたものばかりであつたのに博士は、何等一憂慮する所なく渾身の精力をこれが研究に傾注し、これが完成を期し世界人類から、これが病菌の根絶を期すべく南亞の蠻地に自ら身を挺して、その研究に沒頭中、遂にこの病のために不幸中途にして、その職に殉ずるの外なきに至つたことは實に遺憾に堪ゆる次第である。

9

博士の死は獨り學界のためでなく世界人類のために一大損失である、

四月中の貿易 入超二千二百萬圓

昨年同期對比五千万圓減

大藏省發表

（東京發）四月中の對外貿易額は輸出一億五千九百六十三萬八千圓、輸入一億八千二百五萬七千圓、合計三億四千百六十一萬九千圓の入超となつて昨年同期に比すれば輸出は百四十六萬圓の増加、輸入は五千一百四十五萬五千圓の減少で入超額において四千九百九十九萬五千圓の減縮を示した、而して一月以降の累計額は輸出六億三千百九萬三千圓、輸入七億九千八百六十六萬二千圓、合計十四億三千三百七十五萬五千圓を入超は一億六千四百五十六萬九千圓であつて昨年度に比し八千七百八十四萬一千圓入超減となつたなほ同月中の重要輸出入品は

輸出

	數量（千瓩）	價額（千圓）
豆類	一、〇二五	二、七一八
小麥粉	一、七三四	二、四七八
石炭	二、五二四	一、三一三
生糸	五九、五九一	一、三〇二
綿織物	九、八四二	四、八七八
機械類		二、七三四
油カス		二、〇六八
木材		六、三〇八
揮發油		二、八一一
皮類		四、六九八
小麥		六、五一七
鳥卵		六、四一二
生ゴム		一、三五〇
羊毛		一、三一三
鐵		一、〇二七
紙類		一、三四五
		九、九七九

輸入

	數量（千瓩）	價額（千圓）
米及籾	四、六九八	一、四四四
豆類	六、五一七	一、〇二七
砂糖	六、四一二	一、二九二
綿花	四一、三五〇	八、二七三
硫酸アンモニューム	三、六七九	一、〇四六
メリヤス製品	一、一四四	二、二七三
紙類	八、五八九	一、〇四六
硝子及び同製品	一、五八八	一、〇二七
織製品	一、三一三	一、二九二
水產物	一、三〇二	八、二七三
精糖	四、八七八	一、〇四六
木材	二、七三四	一、二九二
綿織糸	二、〇六八	一、〇四六
綿織物	六、三〇八	二、二七三
陶じ器	二、八一一	一、五二二
		一、二七四
		二、二六六
		一、〇、三六二
		一、三四五
		五、九七九

原田孃と桑港の 城戸辯護士結婚式

多數日白人參列して盛大に擧げられた

（サンフランシスコ廿一日特電）既報のごとく當地前日會長原田重吉氏長女みね子孃は法學士辯護士城戸三郎氏と前バサデナ日本人會長宗牧師の媒介にて婚約中のところ昨廿日當地第一美以教會堂において合同教會の田村牧師司式のもとにオクスナアード美以教會宗牧師立會のうへ桑港より原田ドクター一家族、永本氏令息新郎城戸氏の親友入來、挙式場は立派に季節の花卉にて裝飾され、定刻に達するや新郎新夫左右の歩進より禮裝美々しく各八名の男女つきをひゞき孃の獨唱奏樂のうちに式場へ到着嚴粛に儀式をはりたるは約一時間後二百餘の日米人出席近來になき盛大なる結婚式で後援者の新郎新婦はひさびに密月の旅に出のぼつた。

四十八時間 大陸横斷

飛行會社計畫に 大佐も參加か

（ハバナ廿一日発電）重吉氏の談話あり、宗牧師の紹介で昨日午後九時過ぎ、いと嬢令孃に散重吉氏長女みね子孃は法學士辯護士新郎城戸三郎氏と前バサデナ日本人會長宗牧師の媒介にて婚約中のところ昨廿日當地第一美以教會堂において合同教會の田村牧師司式のもとにオクスナアード美以教會宗牧師立會のうへ桑港より原田ドクター一家族、永本氏令息新郎城戸氏の親友入來、挙式場は立派に季節の花卉にて裝飾され、定刻に達するや新郎新夫左右の歩進より禮裝美々しく各八名の男女つきをひゞき孃の獨唱奏樂のうちに式場へ到着嚴粛に儀式をはりたるは約一時間後二百餘の日米人出席近來になき盛大なる結婚式で後援者の新郎新婦はひさびに密月の旅に出のぼつた。

沙港支那人 對日大會

決議文を米支兩國に

（サンフランシスコ廿一日発電）シヤトル在留支那人は十六日の夜第七街中華會館に大會をひらきて山東事件を討議したのち南京政府および米國南部外務委員長に對して左の意味のことを打電するに決し十七日打電したさうである

南京政府へ

日本軍山東省に寇し人を殺し城を屠り惨虐して人道なし衆皆憤慨す請ふ力めて抗爭せよ

一、〇二七

一、二九二

八、二七三

一、〇四六

一、二九二

一、二七四

二、二六六

一、〇、三六二

一、三四五

五、九七九

願はくは後盾となられん

米國兩院外務委員長へ

日本兵山東省を侵掠し濟南を奪取し國際公法を破壞し實に華府會議條約に違反す請ふ正義を主持されんことを

ワーナー社は 發聲映畫

に努力集中

ワーナー・ブラザース映畫撮影所ではヴァイタフオーン映畫が目下非常な歡迎をうけてゐるので千九百二十八年度の製作のフイルムは主として此方面に集中する豫定であることで今回ニューヨークで開かれた同社最高幹部の協議會では本年度内に作製する代表的映畫のうち十八種ほどの大作はすべてこのヴァイタフオーンを應用するはずであるがこのため今年度中に千二百萬弗の費用を投ずることに決定した、主なる出演俳優としてはチャズシンガーとして有名なアル・ヂョルソンを加はりその他に

△ドロレス・コステロ △モントブルー △アイリン・リチ

原氏宅全燒

ヂョンコルン・ロード原十七吉氏宅は去る五月十五日夕方出火、見る間に全家火の海と化し山上のこゝゆる消防も盡のまが未だ成熟期に至らず世人の注目をひくべくあまりに貧弱であつたともいへやう。

けれどもかゝる狀態は決して米詩の將來に對して暗黑の影を投げるものではなかつた大戦前といへども可なり多くの詩集は絶へず發行せられつゝあつたのである。

△

斯く青年詩人があたかも暗の中に物をさぐる如く自分の行くべき道に向つて進みつゝあつたその時、かれらの活動を、力強く助長するに最も適したる雑誌「ポエトリー」が一千九百十二年シカゴに於て創刊された。

此處に於てか久しく靜かであつたアメリカの詩壇に一つの偉大なる波動がまき起されるに至つたのである。

△

因襲的な詩體から逃れて新しい表現法を發見し新しい世界を描出しやうと、これまで私かに努力してきた詩人は皆この新に生れ出た雑誌『ポエトリー』をほこりとしてその作を發表した。けれどもヴイクトリヤ黄金時代の華やかな音律の詩體はオーソドックスな道を進んでゐたこれらの詩人は、ヴイクトリヤ黄金時代の華やかな音律の詩體をこゝゆる消防も盡のまれたりしかし、これまで武器を得た自由詩人連は驍忍さを克己とをもつて忍し一作一作を發表した。そしてたゆまない愚戦苦闘の結果として世人も漸くその榮を啓かれ自由詩の何物たるかを解する事が出來るやうになり遂にトラジショナルな詩と新しい詩とが並び存立し發展される機になつたのである。實に此時をもつてアメリカ詩のルネサンスといふべきであらう

現代アメリカ詩潮瞥見〔一〕

布市 飯田昌男

かうした大きなタイプルをかゝげ果たしてそれを裏ぎらないやうなことを述べることが出來るか否かは私の疑問とする所である。何故かならば現代アメリカの詩壇は見渡す限りまさに詩人(人)(詩)撮影の狀態である、たとへ彼らの詩について一々記することは此の種のアーティクルを以てすることは不可能の事柄である。それで私は單に現代アメリカの代表的詩人の作について書いて見やうと思ふのである。

△

聖地ゼルサレムにパセスダといふ水四鏡のやうな湖がある、時として天使がこの湖を訪れ坦々さした水面に波動を起させる、そのときに第一にかけつけてこの湖に溶する病者は誰でもその病がすぐに全治したいとこゝである。

△

これはバイブルの中にある一つの偶話であるが、二十世紀の初めにおけるアメリカの詩潮はあたかもゼルサレムの詩潮のそれの如く波動かにして歌々、見ればヴイクトリヤ時代の因襲の餘波によつて僅にその生命をつないでゐたのである。

△

世界の思想界を根本から動させたあの歐洲大戦前には アメリカの詩壇には一人の巨星も現れてゐなかつたといつても過言ではあるまい。

當時サンタヤナは詩界を去つて哲學に入り、ムーディーは既に故人となつてゐた。勿論多くのマイナー詩人はあつた

△メイヤカヴオイ △ルイ・フアセンダ △コンラド・ナーゲル △バスター・コリヤー △ルイ・ロイム △レン・コステロ △ヒューヨー・モリノ △ウイリヤム・ラフセル

△アントニヨ・モリノ △ヒューヨー・ロード

△ヂヨンコルン・ロード

△ヂヨンコルン・ロード

△ヂヨンコルン

船舶補助増額案に 大統領署名す

ダラーは早速新船建造計畫日論む

（華府廿三日）私設船舶戰のおいて補助できることになるわ新船建造に對して國庫が建造費ひである。太平洋航路への早速のを補助せんとするジョーンス・ホワイト案は本日大統領の署名を得た。同法案によれば現在の補助金額一億二千五百萬弗を、一億五千萬弗に增加せんとするもので新船建造費のにも相當の波紋を生ずるであら七十五パーセントまでは政府にうさ。

野口氏の死の報ぜに 夫人卒倒し病院に

博士のは遺骸はその儘米國に運ばれるはず

（紐育廿二日）遠ける野口博士の本国亡なるターデス夫人は博士死去の報に接するやや神經衰弱の結果病院に入院中である。なお博士の遺骸は華盛頓に運ばれるはずだ。

ロックフェラー研究所は野口博士の遺骸は華盛頓出來次第それをやってるたと答えたやうなまゝアメリカに運ばれるであらうと發表した。紐育日米新報の大統領は博士の骨に手をおいて「君は吾が國の寶だ」と云った。

（紐育廿二日）ロックフェラー研究所は野口博士の遺骸は華盛頓出來次第それをやってるたと答えたやうなまゝアメリカに運ばれるであらうと發表した。紐育日米新報の大統領は博士の骨に手をおいて「君は吾が國の寶だ」と云った。

（博士は偉大なる科學者である共にゆかしいロマンチクな人物であった數年前或る病院に入院中である。なお華盛頓に運ばれるはずだ。

博士の死は世界にとって一大損失である。野口博士はロックフェラー研究所にパラクされて病魔、及び病魔によって招來される貧困、悲嘆に對して戰ふた。

軍人の代りに 野口の銅像を建てよ

ハースト系の讃辭 プリスベン氏の筆

野口博士の死について昨日全米のハースト系はアーサー・ブリスベーンの感想として次のことを書き立てた。

『野口博士は最近アフリカの蔓延地で驗のために斃れた、氏は博士の死は世界にとって一大損失である。野口博士はロックフェラー研究所にパラクされて病魔、及び病魔によって招來される貧困、悲嘆に對して戰ふた。

敢爲なる戰士であった。博士はアフリカの黄色熱の本據を突き一層の智識を求めんとしてつひに黄の敵手たる黄色熱によって殺された。山賊にひしめく島上にまたがる青銅の軍人の銅像の如きはよろしくその通き地位を野口博士にゆづるべきである。博士の記憶のごときこそ眞の名譽に値するものであるからである』

桑港コール紙 『野口博士をいたむの辭』

（廿三日發報）世界はいま支那で戰ひつゝある日本の將校に傷んで試みた。猿は死んだ、しかし博士は最後に病に

女性の話題

セルジュ・ボロノフ博士。ウイナ大學の教授でしたが、いまはパリーで研究してます。何をやること仰しやるこ一寸返答に困るのですが――その若返り法を研究してるんです。博士はフランスから類人猿をさらよせて、これの生殖腺を人間に移殖して、猩々をーしでなくて若い老人を製造するといふのです。面白いでせう。前にも書いたことがありましたつけ。

◎

そのボロノフ博士が今度また新發見をしました。いままでの實驗では女はさう男より悪く、一度おひはれた極年婆さんは仲々若かへらないので博士は研究の結果、婦人の内分泌の力は男のそれより弱い事、故に女の内分泌腺のみの移殖では所期の結果は得られないといふ結論を導き、三重手術といふ新法をはじめたのです。

◎

これは甲狀腺の外二種の腺を同時に移植するので手術の結果は白髮はもとの色にもどり、筋肉は澤をましてまるで二十の處女のやうになるといふのです。皆さんも一寸パリーに出掛て手術しておもらひになつたらどうですかと申しましてもお若くて、お美しくて、そんな必要はお認めにならぬ方々ばかりでしたら、お詳しく下さるい。

◎

若かへりの話で思ひだしましたが、スペインの獨裁首相リベラ將軍は今度セント、フエリラ伯爵令嬢と結婚しましたリベラ將軍はいま五十四五でせうが、令嬢はいま五十四五でせうが、有手にアルフオンソ陛下の首つ玉をきらへ、左手に花はやかしい（かどうかは疑問として）美姫を擁して、南國の夏いよいよよたけなはの感ありです。

◎

州保健局での統計によるとすると、「四十男の馬鹿」といふ諺はいつはりで、男の危險期は卅二であるといひます。平均寿命は男は廿八歳で結婚後五年目に當り、統計は結婚後三、四、五年目が最も危險なことを示してゐます。ですから日本ことに「四十の分別男」といけない諺の方が當つてるわけですが、遺憾ながら、私にはそこまでの感覺はわかりません。しかし數字は正直です。卅二歳前後の夫君をお持ちの方は警戒なさい。しかし、あまり警戒し過ぎて……は困りますよ。

新小説　世紀の夜　（八十七）

尾崎士郎作

南里支作　（十）

「誰だ？」

「おれだよ」

格子戸の外の聲が呟くやうに答へた南里は後い眼から醒たばかりの瞳にうつるその男の顔を數秒間際に立つてもう一度はつきり見定めてから、錠を外すために土間へおりた。

「……黒上ぢやないか、すつかり風邪が變つてるから全く見違へたぞ。おれの家がわかつたな？」

「骨が折れたぜ、この家が探すのには、しかし、居てくれてよかつた。――これで留守だつたらもう二度ミ保証場まで戻る勇氣はないからな」

南里は内側から格子戸をあけると、黒上はぐつたりさよりかけるやうにはいつてきた。

「――しかし何しろ驚いた奴だが、今頃何かおれに用事でもあるのかい？」

「用事？」

黒上は靴の紐を解く手をやめながら南里の方をふりかへつて

「用事があるかつて、――冗談じやない、君のところに用事なんかあるもんか、今夜はね、偶然めぐり合せて若い學生の一團と酒をのんでね、その中の一人の男から君の噂を聞いたんだ。それでひよつこり訪ねる氣になつたといふわけさ。何しろおほろ月夜に友情が探らさいふ風流な奴だからな」

「その學生さいふのは誰だ？」

「眼鏡をかけた若い男だつた、――名前は忘れてしまつたが、そいつはしきりに君を讃美してるたからね、おれも一所になつて君の高德を讃めたよ。――あの男は人生の三百代言だつて、文學者でもなければ哲學者でもない、さうかといつて政治家でもなければ會社員でもない、純粋人生にケチをつけて運命のカスリをさつて生きてる男だ、こいつてね、おれの頭腦は拉手喝采をうけたよ……」

黒上は部屋へはいるとすぐにごろりと横になつて煙草のやぶれた外套を着たまゝ疊の上に寝そべつたが、しかし、ふと机の上に置いてあるウイスキーの瓶が目についたやうに起ぱかりの瞳にうつるその男の顔を數秒間際に立つてもう一度はつきり見定めてから、錠を外すために土間へおりた。

「……黒上ぢやないか、すつかり風邪が變つてるから全く見違へたぞ。おれの家がわかつたな？」

「骨が折れたぜ、この家が探すのには、しかし、居てくれてよかつた。――これで留守だつたらもう二度ミ保証場まで戻る勇氣はないからな」

南里は内側から格子戸をあけると、黒上はぐつたりさよりかけるやうにはいつてきた。

「――しかし何しろ驚いた奴だが、今頃何かおれに用事でもあるのかい？」

黒上は靴の紐を解く手をやめながら南里の方をふりかへつて

「用事があるかつて、――冗談じやない、君のところに用事なんかあるもんか、今夜はね、偶然めぐり合せて若い學生の一團と酒をのんでね、その中の一人の男から君の噂を聞いたんだ。それでひよつこり訪ねる氣になつたといふわけさ。何しろおほろ月夜に友情が探らさいふ風流な奴だからな」

「その學生さいふのは誰だ？」

「眼鏡をかけた若い男だつた、――名前は忘れてしまつたが、そいつはしきりに君を讃美してるたからね、おれも一所になつて君の高德を讃めたよ。――あの男は人生の三百代言だつて、文學者でもなければ哲學者でも

ごろりと横になつて煙のやぶれた外套を着たまゝ疊の上に寝そべつたが、しかし、ふと机の上に置いてあるウイスキーの瓶が目についたやうに起ぱかりの瞳にうつるその男の顔を數秒間際に立つてもう一度はつきり見定めてから、錠を外すために土間へおりた。

「……黒上ぢやないか、すつかり風邪が變つてるから全く見違へたぞ。おれの家がわかつたな？」

「骨が折れたぜ、この家が探すのには、しかし、居てくれてよかつた。――これで留守だつたらもう二度ミ保証場まで戻る勇氣はないからな」

南里は内側から格子戸をあけると、黒上はぐつたりさよりかけるやうにはいつてきた。

「――しかし何しろ驚いた奴だが、今頃何かおれに用事でもあるのかい？」

黒上は靴の紐を解く手をやめながら南里の方をふりかへつて

「用事があるかつて、――冗談じやない、君のところに用事なんかあるもんか、今夜はね、偶然めぐり合せて若い學生の一團と酒をのんでね、その中の一人の男から君の噂を聞いたんだ。それでひよつこり訪ねる氣になつたといふわけさ。何しろおほろ月夜に友情が探らさいふ風流な奴だからな」

「その學生さいふのは誰だ？」

「眼鏡をかけた若い男だつた、――名前は忘れてしまつたが、そいつはしきりに君を讃美してるたからね、おれも一所になつて君の高德を讃めたよ。――あの男は人生の三百代言だつて、文學者でもなければ哲學者でも

ない、さうかといつて政治家でもなければ會社員でもない、純粋人生にケチをつけて運命のカスリをさつて生きてる男だ、こいつてね、おれの頭腦は拉手喝采をうけたよ……」

黒上はボロボロの眼の色を變へて、顔の肉が痙攣的に顫はせた。南里の心の底から一時に燃ゆる

南加版
支社電話【ユロー】ユーチ八四一五

加大敷地附近には東洋人を住せぬ

土地會社の内契約に對して日本協會各方面に運動し大學側で嚴談す

加州大學設立地たるウエストウードの土地所有者は不都合も内々同大學を中心として土地は一切白色人種以外には賣らぬといふ契約をなしつゝあり所にこの契約は土地會社間に出來上つたとのことで當地の日本協會では幹部その他數名の惡傾向を阻止すべく運動を開始し協會代表は先づ大學當局者に會見して土地會社の不都合を知らせ否や問合せた處大學側宅も出來百數十名のスクール等も出來るは必然で若し白人種以外の者を同地方に居住させぬときなれば小學校上多大の惡影響を子供に與ふる事となるから今日より是れを教育局の當事者に交渉通達し置く必要あり教育局よりも土地會社に取締るべしとなし水澤領事を初めとしナーターハウス、ミス、スミスの三氏が教育局を訪問して土地會社が内々契約せしウエスト・ウード區域に白色人種にあらざる者は使用人としより以外居住を許さぬといふ條項を取去るべく交渉することゝなつたが若しこの契約が修正されねばならぬとこの問題は單に大學のみならず大學が設立され大學町が出來れば附近には必ず住てるが一方この問題は大學側では協議の結果ジャンス土地會社の契約を修正しむることゝなつたから多分會社の土地に關する

契約の一部は修正さる

ゝならんと云はれる

博士なる所かゝる不合理なことは決して許すべきものにあらずと憤慨し大學側では協議の結果ジャンス土地會社の契約を修正

らましたので官憲は各方面に手配し協會代表は同盟が就動してゐるを取調べ上つたとのことで當地の日本協會では幹部その他數名の惡傾向を阻止すべく種々協議の結果ジャンス土地會社の契約を修正

喜多能樂會

追善謠

練習の賜とも云へる程よく謠はるる

多能樂會の第廿五回例會並に見玉氏追善供養の謠は廿日午後二時から開催され使の讀經の後ワキ田氏の挨拶に見玉未亡人の挨拶あつて直に開かれた當日の巴の地は青年諸君然も最近の巴の地は青年諸君然も最近の巴の地は青年諸君然も最近

フレスノ【廿日】

中加選手 決定す 練習開始

全加州角力大會へ

來る六月九・十日の兩日羅府に於いて舉行の米國相撲協會主催の全加州青年聯合角力大會へ中加相撲協會にも參加申込んだので快諾の上選手交渉の結果春駒・笹島・中川・小樽は既に決定しこの外バレア町ハンフォード・ビーム・ビーム氏・ビーム氏・ビーム氏

サクラメント（廿二日）

ボイコットは支那人側で解決

方法を講ずるやう勸告す　同胞は滿を持して放たぬ

支那の擾亂と日本の出兵に關し無理解の憤懣をいだく國府の支那人は兩三日前より日本人の商業並びに營業に對し一齊にボイコットを開始したことは既報の如きがなお本紙の調査によれば昨二十二日午後一時より理事會を開き善後策を協議したその結果は同胞側は暫らく成行きを注視し滿を持して放たぬ度腹を見せるべからく支那人の方より

▲是非を悟りて解決する方法を講ずるやうに支那人の有力者を通じて勸告するところつた支那人の方でも來る日曜に集會するよしで、その際穏便にすむや努力するで、その有力者は語つたか支那人のボイコットに若し同胞側が對抗するといふことになれば他地方はいざ知らず國府では八分の勝ちは同胞側にあるであらう。しかし、さうした喧嘩は兩方に何の利益もたらすのでないことは自明の理である。この點

▲同盟を取り引關係の密接なる支那人もよく理解してるところで、例へばダイヤモンド、ホテルのトングサング商會か或は第四街の肉店主人とかは初から今河の擧に反對であるらしいボイコットは先日の日曜における支那人の集會で定まつたものらしいが、そうした有力の反響もあることであるから一時的の現象で永續きはせぬであらうと

一家の子供　交もも病氣

氣の毒な小島氏

當地サウサイドの農業家小島鶴吉氏一家には客月以來六名の子供のうち二名は既に入院中なりしが全快して退院し一名は目下醫師の長期ならず病氣養生中なるも入院中の子供の長期に亦ならず病氣養生中なるも入院中の子供の長期に亦ならず病氣養生中なるも入院中の子供の長期に亦

The Largest English Section Published Daily By Any Japanese Paper On This Continent

The Japanese American News

THE LARGEST JAPANESE NEWSPAPER PUBLISHED OUTSIDE OF JAPAN

A Newspaper Primarily For American Citizens Of Japanese Ancestry In The United States

NUMBER 10262 | Entered at the S. F. Post Office as Second Class Matter. | SAN FRANCISCO, CALIF., THURSDAY, MAY 24, 1928 | Copyright 1928 by The Japanese American News | Per Month $1.00 Per Year $11.00

JAPAN

And Things Japanese

Japan and Things Japanese, a section devoted to present-day news and views, and ancient facts, regarding the Japanese people and their country, is a regular feature of the English Section.

DEGRADING INFLUENCE OF FASHION

By Utako Shimoda

Imitativeness is the starting point in human society, says Spencer. It seems certainly reasonable that much of human being and human doing begins in chasing models and remoulding them.

Almost invariably women is sensitive to fashion. She very reluctantly casts away whatever possessions—beautiful clothes or hair ornaments—she has, if they are behind the prevailing fashion. The trader's watchword, "This is most modern and now greatly in fashion," serve as a witch's wand, and woman is hypnotized completely.

Bad To Follow

The situation of a woman obedient to the fashion of the time is like that of the people of an absolute monarchy kneeling at the feet of a despot. Knowing that it is bad to follow the fashion, and knowing it, she cannot resist, but obeys the despotic compelling force.

Rarely is a woman unmindful of the fashion. It is the passion of woman to think of beauty of body, beauty of dress, beauty of ornaments, and beauty of all things—looking everlastingly for beauty, and to be its personification. There may be some women dependent upon social positions, circumstances or personal disposition, more or less, extreme or moderate, but almost none, especially among young women of the age, are not altogether susceptible to or unmindful of fashion.

Men Are Originators

The central features of fashion is said to be at Paris, in Europe and America; but in Japan, Paris does not control except in spots, where there are women of wealth or wives of diplomats, Japan's fashions usually originate at Tokyo in the east, and Kyoto and Osaka in the west. And as in Europe and America, the business men are the originators of the fashion, or at least the fashion on the go.

(To Be Continued)

THE WEATHER

Official Weather Forecast:

New York may be the chief patron of the drama, but Chicago has her beaten in melodrama.

GIRL BARES LEPER WOE IN NIPPON

Danger Of Disease Increases Since Meiji Era

By Chie Koide

(Miss Chie Koide is a student of a girl's high school in Japan. The eradication of leprosy from Japan is one of the most important social problems confronting Nippon. —The Editors.

It is absolutely a shame that even in these enlightened days, Japan has still 60,000 lepers while western civilized countries have very few. The day for the Japanese to cast an evil eye on them, or to imprison them in most miserable conditions, or let them wander about destitute, should be past. Today, how to cure the unfortunate disease and rid the country of leprosy is one of the divinely appointed work left for the modern Japanese.

Until quite recently, the doctors in the world believed in the hereditary nature of leprosy. Now the advancement of science has proved the disease to be infectionous, but not a bit hereditary. In Japan, because of there being many cases of leprosy in one family, it is indeed difficult, even for some doctors, to believe in that wonderful proof.

Open To Contagion

The reason why the disease breaks out so often in one family lies in the fact that as we, Japanese, have strickly avoided marriage with those of leprous decent, the latter, who are of only a little immunity against the disease, have married those in a similar condition. As a result, they have had children of worse constitution, especially susceptible to contagion. Besides, the families of lepers are placed in the most dangerous situations; for, as in the cases of other infectionous diseases, those who are in the most close contact with the diseased have the greatest chances of being infected.

Though leprosy is infectionous, before the Meiji Era, that is sixty years ago, the danger of the disease was not so great as today, because life was simple and fortunately, the ignorant fear and the strong hatred of the public toward lepers kept the disease from spreading. The era of Meiji, however, brought us to the far more complicated world. Now the whole world is one community where opening of traffic, the complexity of social intercourse and many kinds of cooperative occupations offer favorable chances for the spread of all sorts of contagious diseases.

If the public were always able to recognize the diseased among themselves, it would be easier to lessen the danger; but the disease does not always develop outside upon faces or hands to be detected easily. So, wateringplaces, theatres and the various institutions for public amusement have become hot-beds for the germs of the disease while manufacturers and money serve as the mediators.

Attitude Changed

The discovery of a leprae bacillus in 1873, entirely changed the attitude of Western Countries towards the disease. It proves that the disease is caused by taking some special bacillus to be cultivated except in a human body or inoculated into lower animals, it makes people doubtful of its common infectivity, and makes them consider that the disease does not develop in every one but only in persons of particular constitution. Moreover, as it is difficult to trace the route of infection owing to its long incubation period, the infectivity itself is extremely doubtful to the people in some countries. These doubts, however, can be cleared away by the following experiment and instances.

One of the most noted experiments on a human body was undertaken in 1884, by a German medical man, Dr. Arning. He inoculated with a leper's blood to a Hawaiin criminal of excellent constitution, sentenced to death. After four weeks, the criminal's left arm in which the inoculation had been done, suffered much pain and the Nervas Ulnarleas and the Nervas Medianus of the arm began to swell. Then within the following six months, the swelling disappeared again leaving a little nodule on a spot of the inoculation, and in two years he doubtless, became the victim of leprae tuberrosa.

(To Be Continued)

Soldiers Of Mikado Paid Dime A Day

TOKYO, May 24—(UP)—A Japanese soldier receives an average of about 20 sen, or less than 10 cents gold per day, for his services, it was revealed during political discussions here.

Sanji Muto, president of the Businessmen's Political Party, recently told leaders of the Seiyukai, or government party, that the average conscript has to write home for about two yen every month for pocket money.

KEIO LOSES TO HARVARD

Japanese Varsity Men Drop Close Tilt

CAMBRIDGE, (Mass), May 22—Harvard defeated Keio University of Japan, 4 to 3, today in a game featured by tight pitching. Three errors by the visitors turned the scales in the Crimson's favor. Harvard scored all its runs in the first three innings off the delivery of Miyatake. Hamazaki, who took up the burden for Keio in the fourth held the Crimson scoreless.

Keio Varsity plays New York University May 24, and Yale May 28.

BALL TEAMS WILL CLASH AT SAC'TO

Four Leading Japanese Lines To Decide Series

SACRAMENTO, May 23—(Special)—Hundreds of ball fans will flock to this city to cheer their favorite teams when four of the leading Japanese nines of Northern California clash in a two-day tournament sponsored by the local Nippon Stars June 2 and 3 at the Yolo Grounds.

The first day of the series will witness two games: the Fresno Athletics vs. the Alameda Taiiku, and the Florin Japanese vs. the Sacramento Nippons.

On the second day the two winning teams will play off for the championship, while the two losers will contest for third place.

This tournament is a preliminary event to the series at San Jose in conjunction with the Independence Day celebration in which four of the strongest Japanese teams of the North, including the Alameda Taiiku, the San Jose Asahi, the Fresno Atheltics, and the Sacramento Nippons will battle for the Northern California championship July 3 and 4 on the Asah ball grounds.

One of the biggest crowds ever to assemble in the Garden City is expected to witness these matches.

Girls Asked To Be At Y. W. To Plan Picnic

Miss Sumi Yamamoto, secretary of the local Japanese Y. W. C. A., announced yesterday that all Japanese girls between the ages of 12 and 18 who are desirous of attending the annual Locoya Camp outing in Napa County should meet Thursday afternoon at 4:45 o'clock, at the local Japanese Y. W. C. A.

The Silver Echo girls will meet Friday afternoon at 3:45 o'clock. The Little Echo meeting is scheduled for Saturday afternoon, 2 o'clock. The Golden Echoes will meet Wednesday, May 23, 8 p. m.

HELEN LOSES

ROLAND GARROS STADIUM, PARIS, May 23—(UP)—Miss Helen Wills and Miss Penelope Anderson of America, were beaten, 3-6, 7-5, 6-4, by Mlle Suzanne Neve and Mme. La Faurie today in the women's double of the French tennis championships.

NOGUCHI KEPT FEVER NOTES TILL THE END

His Reports Remain Intact, Complete After Death

NEW YORK, May 23—(Special)—High tribute is being paid here today to the late Dr. Hideyo Noguchi, who died in Africa early this week.

Reports from South Africa received here today state that the late scientist kept notes until the very end, and his reports are intact and complete.

The magazine Time, in a recent issue says:

Yellow fever has been stamped out in the Americas; it still rages on the coast of West Africa. Ten years ago Dr. Hideyo Noguchi discovered that American yellow fever was caused by a tiny organism which he named Leptospira icteroides; was carried by a common lady mosquito, Stegomyia calopus; that guinea pigs could be infected with the organism; that the mosquito would carry the infection from one animal to another; that a horse serum could be prepared that would cure the disease if administered shortly after the infection. These facts known, the disease was conquered.

Progress Retarded

The same process must be applied to West Africa. For over two years a Commission of the Rockefeller Foundation has been at work on the problem in the U. S. because none of the experimental animals would contract the African form of yellow fever. In the end it was Dr. Noguchi himself who went to Accra on the West coast of Africa to experiment, was there taken to the hospital with yellow fever. On the fifth day when his high temperature was reluctantly dropping and the second stage of the disease had set in, he had a monkey from India (Macacus rhesus) inoculated with his infected blood. The monkey died twelve days later from a severe case of yellow fever. Fifty more monkeys were inoculated and succumbed. Finally serum from the blood of Patient Noguchi, recovering from the yellow fever, was administered and the protective antibodies prevented animals from contracting yellow fever from a subsequent injection of the germ.

Bacteriologist Noguchi by his experiment has found the invading West African organism to be a more vicious member of the American Leptospira family, is now working on a vaccine.

Dr. Noguchi Died Fighting Yellow Fever

LONDON, May 22—(UP)—Dr. Hideyo Noguchi, one of the outstanding bacteriologists of the world, who died in South America - a victim of a disease germ that he alone had been able to isolate, was chief medical investigator for the Rockefeller Institute. He had been in South Africa for several months. Before leaving he was inoculated against South American yellow fever, a less virulent form than the African fever.

On Jan. 2 he was taken ill and sent to a hospital at Accra.

He spent the days studying the disease that gripped him and believed he had isolated the germ. The Japanese doctor subsequently recovered and attributed it to inoculation before he left New York.

Then he was taken ill the second time and this illness resulted in his death yesterday.

The Japanese bacteriologist was rated as one of the greatest of his profession.

Y. M. C. A. Meetings

Thursday, May 24	
B. A. Pioneers Council	7:00 p. m.
B. A. Pioneers	7:30 p. m.
Track Practice	4:30 p. m.
Friday, May 25	
Leaders Meeting	7:00 p. m.
B. A. Youngsters	7:40 p. m.
B. A. Bear Cubs	7:40 p. m.
Hi-Y Club	9:00 p. m.
Saturday, May 26	
B. A. Comrades	8:15 p. m.

Weight in Wednesday or Thursday evening.

Man Confesses Knifing Former Wife's Husband

LOS ANGELES, May 23—(Special)—Yumatsu Sakamoto, 40, sought since Sunday in connection with the stabbing of Hidemitsu Yanagawa, was captured by local detectives today.

Police were able, late today, to extract a confession of the stabbing from Sakamoto. The man is now being held on a charge of attempt at murder.

Yanagawa was stabbed in his own home on San Pedro St. late Sunday night. Sakamoto is the former husband of Mrs. Yanagawa.

COUPLE WEDS AT RIVERSIDE

Kido - Harada Nuptials Attended By 200

RIVERSIDE, May 23—(Special)—The spacious chapel of the local First Methodist Church was the scene of a brilliant wedding Sunday when, in the presence of more than 200 guests, including leading Japanese and American residents here, Miss Mine Harada, eldest daughter of a pioneer Japanese, was united in holy wedlock to Saburo Kido, prominent second generation lawyer of San Francisco.

The bridal couple marched to the altar under the strains of the Lohengrin rendered beautifully by a talented American musican. Rev. Tamura of the Union Church officiated.

The impressive ceremony was followed by a delightful tea.

A wedding banquet, with more than four score people in attendance, was held at the Washington on Ninth Avenue. G. Iseda was toastmaster. Congratulatory addresses were delivered by representatives of leading organizations here, followed by a speech of thanks delivered in behalf of the couple by Mr. Sugiwara.

Mrs. Saburo Kido is the eldest daughter of Ryukichi Harada, former president of the Riverside Japanese Association and a sister of Dr. M. Harada, prominent surgeon of San Francisco.

Kido is a graduate of Hastings Law School of the University of California. After passing the state bar examination a few years ago, he opened offices at 1621 Webster Street, San Francisco.

OUR JUNIOR SECTION

Mabel C. A. Araki of Petaluma sends us this riddle:

I am made of glass. I live in houses, schools and stores. I cannot walk, but I can run. I am very busy every minute of the day. When all sleep I can't even stop, as my master would set me to work again. Can you guess who I am?" Answer: A clock.

* * * * * *

That was a good riddle, Mabel. Thanks. And we liked your letter also.

* * * * * *

What is behind the knob? asks Shizue Tamura. Answer: A door.

* * * * * *

Little Betty's grandmother used the old-fashioned method for measuring a yard by stretching the goods at arm's length, holding one end of it up to her nose. One day Betty came up to her grandmother with a piece of tape.

"Smell this, grandma, and see how long it is," was the startling request.

* * * * * *

Some time ago Kazu Moriyama sent us a book of Tramp Jokes. Here's one of the jokes we found in the book:

A tramp appeared at the rear door of a farmer's house and asked for something to eat, where upon the lady of the house replied.

"I will give you a dinner if you will spend half an hour splitting that wood."

"Lady," answered the tramp, "I'm not desperate. I'm just hungry."

* * * * * *

This is all for today, everyone. But before we close, we want to remind you again to act quickly if you want to get one of our cameras free. The offer will be open only for a limited time and its "first come,

PEKING FALL NEARS AS SOUTH LAUNCHES DRIVE WITH 200,000 TROOPS

Northern Defense Force Scattered At Strategic Points Along Main Front; Heavy Fighting Over Wide Area Opens

A Tokyo dispatch to the Daily Mail said more than 400,000 men were engaged in the big drive.

The northern defense force was said to number about 200,000 men and to be scattered at strategic points along the main front, which varies from about 125 to 200 miles below the central government capital.

The invading army was reported to have a strength of about 220,000 men.

A brief advice to the Morning Post from its Peking correspondent reported the fighting was particularly heavy along the Peking-Hankow railroad.

Fighting Starts

LONDON, May 23—(UP)—Heavy fighting in a major engagement between Chinese nationalists and northerners over a wide front below Peking was reported in advices received in London today.

There were no datails of this first major engagement between the forces of Chang Tso-Lin and the southern armies of General Chiang Kai-shek and General Feng Yu-hsiang, other than that the fighting was severe.

The front was reported to extend from Nankou Pass, through Pailingfu to Tsang-chow in a semi-circle of the northern capital of Peking.

Raphael Weill Pupils To Put On Spring Play

Raphael Weill School will welcome the coming of Spring on Friday with the presentation of a lovely play written by the upper class pupils. This will be presented in the school auditorium at 8 o'clock in the evening.

The people of the community are cordially invited to the Spring Festival. All are promised an enjoyable and instructive evening. The children and their teachers who have worked to make the festival another of the Raphael Weill's many successful programs, look forward to welcoming all who wish to come.

PALY PLAYS APPLE CITY

Watsonville Nine To Cross Bats With Y. M. B. A.

The Palo Alto Y. M. B. A. baseball team led by Frank Yamasaki will invade the South Main diamond and trade swats with the Watsonville Athletic Club at 2 p. m. Sunday.

The Palo Alto team officials lay claim to one of the best teams in the Bussei league. They have defeated several strong teams from nearby cities and hope to take on Watsonville by adding the scalp of the Apple City to their collection.

Watsonville Improves

Since its defeat by Keio University, Watsonville has improved considerably. All regulars are back for the Japanese club. With Benny Matsuda or George Shikuma on the mound the visitors will have some difficulty in connecting for hits.

The line up announced for Palo Alto: Miyahara, p.; Kobayashi, c.; Sugimoto, 1b.; Kumagai, 2b.; Yamasaki, 3b.; Okuma, ss.; Nakamura, lf.; Yoshimoto, cf.; and Ochi, rf.

For Watsonville Athletic Club: Chicky Ogi,ss.; T. Matsuda, 3b.; M. Wada, (capt.), 1b.; S. Nagase, cf.; J. Morimoto, lf.; R. Yamasaki, 2b.; S. Wada, rf.; P. Takata, c.; B. Matsuda or Geo. Shikuma, p.

THE ROMANCE OF JAPAN

Through the Ages

By

JAMES A. B. SCHERER

An Interpretative Outline of the Story of Japan from the Introduction of Buddhism in 552 A. D. to the Passage of the Manhood Suffrage Act in 1925.

(Continued from yesterday)

Whoever visits the so-called holy Hindu city of Benares may visualize the foully decadent Brahminism out of which Gautama emerged; for Benares has dropped back to just what it was, morally, before the Enlightened One preached his first sermon in the Deer Park at Sarath near by. It is profoundly appropriate that he is always associated in art with the lotus. The white flower of a blameless life and pure precept sprang up like a beautiful miracle from the mire of his "religious" surroundings.

The purity of his precept is now buried under masses of rubbish. Our poor race seems incorrigibly averse from the simplicity of its few supreme teachers, tending in the long run to subvert their precepts into dogmatic counterfeits or even into bald contradictions. Today Buddha is deified by some of his namesakes as head-god in a pantheon of half-a-million deities, yet he himself seems to have been a clear-cut agnostic, holding that since we cannot be absolutely certain of anything about the nature of the Absolute, it is fruitless and even harmful to speculate. Schools of modern Buddhism concern themselves largely with fine-spun theories of the soul, yet Gautama discoursed to his disciples on "the absence of any sign of soul in the constituent elements of a human being." Giving over this present world as hopeless, modern Buddhism sometimes stresses immortality as a corrective of mundane ills, yet Gautama reckoned belief in immortality a blunder, and the craving for it is a sin, distracting and diverting men and women from the immediate improvement of character. Nirvana is almost universally misunderstood as the Buddha's pet doctrine of extinction. Rhys Davids says that what he himself meant by it was merely the "snuffing-out"—as the word indeed denotes—of "hell fire of the three cardinal sins." "There are two extremes," Gautama taught, "that ought not to be followed: habitual devotion on the one hand to the passions, to the pleasures of sensual things, a low and pagan way of seeking satisfaction, ignoble, unprofitable, fit only for theworldly-minded; and habitual devotion, on the other hand, to self-mortification, which is painful, ignoble, unprofitable. There is a Middle PPath: a path which opens the eyes and bestows understanding, which leads to peace, to insight, to higher wisdom, to Nirvana—the dying out in the heart of the hell fire of the three cardinal sins, sensuality, ill-will, and stupidity."

2

Gautama's strangely simple and "modern" system of ethics underwent many vicissitudes during the thousand years intervening between its first enunciation and its entrance into Japan. After prolonged triumph in the land of its birth, it was verging toward extinction in India; throttled there by the deadly convention of caste, against which its democratizing tendencies had waged silent but effective warfare. But its conquest of Burma and Ceylon remained supreme and secure, and it had also swept triumphantly through Siam and Malaya over into China and even as far as Korea, then at its cultural zenith.

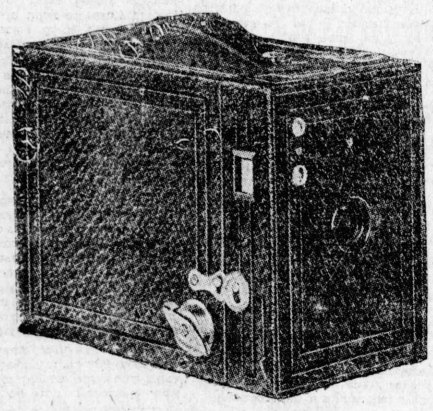
(To be Continued)

Through Special Arrangement With Publishers

NEVERS SOLD

ST. LOUIS, MO., May 23—(UP)—Ernie Nevers, pitcher for the St. Louis American league club, and former All-American football star at Stanford University, has been sold to the Mission club of the Pacific Coast league, Business Manager Bill Friel of the Browns announced today.

Boys and Girls-- Join The Junior Club



HOW YOU CAN GET THIS CAMERA:

This offer is open to all members of the Junior Club. If you are not already a member, send us your names, addresses, ages and the dates of your birthdays and we will include you among our growing membership.

HERE IS

An Astounding Offer

WE GIVE YOU AN

EASTMAN

No. 2A 2½x4¼ Roll Film Camera

FREE!

ALL YOU'LL HAVE TO DO IS GET TWO NEW 2-MONTHS SUBSCRIPTIONS OR ONE NEW 4-MONTHS SUBSCRIPTION TO THE JAPANESE AMERICAN NEWS WHICH AMOUNTS TO $4.00.

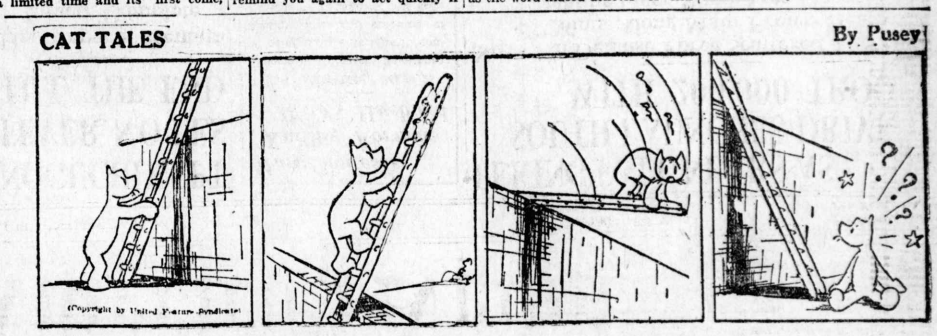
Secure either one or two people to sign the coupons below, fill in your name and address, mail or bring in the coupons with $4.00 to our circulation manager, and after verification the FAMOUS EASTMAN CAMERA is yours, absolutely free.

Circulation Manager
The Japanese American News
650 Ellis Street,
San Francisco, California.

Dear Sir: Please enter my order for a ( ) months subscription. I have paid $....., to ....., a Junior Club member.
Signed (By Subscriber) .....
Address .....
Order taken by
(Junior Club Member) .....
Address .....

Circulation Manager
The Japanese American News
650 Ellis Street,
San Francisco, California.

Dear Sir: Please enter my order for a ( ) months subscription. I have paid $....., to ....., a Junior Club member.
Signed (By Subscriber) .....
Address .....
Order taken by
(Junior Club Member) .....
Address .....

CAT TALES

By Pusey